

ご案内

平成27年11月

弊センターは、昭和51年10月の設立以来、関係各位のご指導、ご支援を頂きながら、放射性廃棄物の安全かつ合理的な処理処分の実現に求められる様々な試験、研究、開発、調査等を推進し、その成果の普及に努めてまいりました。

このたび、平成27年度原環センター研究発表会として、弊センターがこれまで実施してきた研究成果の報告と福島工業高等専門学校特命教授・北海道大学名誉教授 佐藤正知氏をお招きした特別講演「核燃料サイクル分野の横断的研究から見えてきたこと」を企画いたしました。

ご多忙中とは存じますが、皆様のご来駕を頂きたくご案内申し上げます。

公益財団法人 原子力環境整備促進・資金管理センター
理事長 高橋 彰

特別講演概要

原子力発電が軌道に乗り始めた後、燃焼度の比較的低い燃料を再処理することにより発生する高レベル放射性廃液に対するガラス固化技術開発は1990年頃まで比較的順調に進んだ。この結果、ガラス材料工学担当の技術者はその役割を終えたと判断され、技術開発の重点は工学的なシステム研究開発に移った。1990年代に入って高燃焼度化が進められ、Pu-239の燃焼割合が高まり、貴金属FPの生成が増加することになり、ジュール加熱型のガラス固化技術開発は新たな課題を抱え問題は顕在化した。核燃料サイクルを構成する異なる分野間で互いに影響しあう問題の顕在化を避けるため、課題をいち早く抽出し、対応する仕組みづくりが求められる。その取り組みの一つとして核燃料サイクルにおける分野横断的な検討が有用であることが見えてきた。本講演では、このような検討の経緯と現況について紹介する。

講師紹介

1949年1月生まれ、北海道函館市出身。1971年北海道大学理学部化学科卒業。1976年北海道大学大学院理学研究科博士課程修了、理学博士。同年、米国シカゴ大学James Franck研究所 博士研究員。1978年九州大学工学部助手（工学部応用原子核工学科）、1989年北海道大学助教授（工学部原子工学科）、2001年北海道大学教授（大学院工学研究院）、2012年北海道大学名誉教授、福島工業高等専門学校特命教授。日本原子力学会賞論文賞（1991）、日本原子力学会バックエンド部会功績賞（2012）、日本原子力学会技術賞（2014）。「エネルギーと環境」地球サイエンスシリーズ⑥、三共出版（1998）、図解雑学・エネルギー、ナツメ社（2000年）。日本原子力学会理事（2008～2010）、NUMO技術開発評価会議委員長（2012～2015）。青森県原子力政策懇話会委員（2011～）。

プログラム

開 会 （13:30）

1. 挨拶 （13:30～13:35）

理事長 高橋 彰

2. 研究発表

(1)原環センターにおける調査研究の概要

(13:35～13:55)

常務理事 田中 俊彦

(2)オーバーパックの品質/健全性

—評価・製作・初期条件からなるシステムの構築—

(13:55～14:30)

処分工学調査研究プロジェクト
プロジェクト・リーダー 小林 正人

(3)余裕深度処分施設の施工技術の確証

—地下環境下・実規模大の地下空洞型処分施設の構築を例に—

(14:30～15:10)

基準規格・L1プロジェクト
チーフ・プロジェクト・マネジャー 秋山 吉弘

休 憩 （15:10～15:30）

3. 特別講演

核燃料サイクル分野の横断的研究から見えてきたこと

(15:30～16:45)

独立行政法人国立高等専門学校機構
福島工業高等専門学校 特命教授 佐藤 正知
北海道大学名誉教授

閉 会 （16:45）